

## (熊本県立第二高等学校) 令和4年度(2022年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
本校の三綱領「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。また、これまでの教育方針に基づき、教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力がみなぎる存在感のある学校づくりをめざす。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 新教育課程の実施と新評価規定(ICE評価モデル)の研究 (2) 動画を含めた学習支援ツールClassiやChromebook等を利用した家庭学習の充実〔スタディサポート、定期考査、対外模試の繋がり学力アップへ〕 (3) 新評価規定実施による定期考査のあり方研究〔I、Cフェーズをどのように評価するか、出題方法の研究〕 (4) GR、SS、ASの内容研究(STEAM-D)と論理コミュニケーションの導入 (5) 海外研修に代わるエンパワーメントプログラム等の導入 (6) 朝のSHRのあり方の研究〔連絡の精選、Chromebookの活用〕 (7) 18歳成人年齢引き下げによる生徒指導のあり方の研究 (8) SNSの指導のあり方の研究及びいじめ防止対策のあり方検討

<b>3 自己評価総括表</b>							
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
学 校 経 営	特色ある 学校づく り	自ら学ぶ態度 の育成	進路指導年間計画に沿って、各学年で段階的に主体的に学ぶ姿勢と自学自習の習慣を定着させ、学力伸張の基礎を固める。	・各学年における進路目標を明確化し、計画に基づいて進路学習や個別面談を実施することで継続的かつ個別に生徒の意識に働きかける。 ・早期学習の廃止に伴う「授業第一主義」を推進するため、教材研究をはじめ、大学入試問題研究、分析を行い教師がより高い教科指導力を身につけることで、生徒が自ら学ぶ姿勢を図る。	B	・「令和4年度進路指導部年間計画」を基に各学年による指導目標を示し、継続的に取り組むことができた。 ・1学期に難関大をはじめ、熊本大学等の入試問題研究会を実施し、問題分析・出題傾向の共有を図ることができた。これを定期考査等の問題作成にも活用し生徒の読解力、思考力、情報処理能力といった能力の育成につなげたい。 ・次年度からの課外は3年の夕課外のみとなり、時間的な制約があるため実施科目やコマ数、コースの編成、教材などの工夫や見直しが必要である。	
		読書習慣の定着	生徒の朝読書週間定着率90%以上を目指し、読書の幅の広がりを図りながら自己変容の質的の向上を目指す。	年間を通して、「朝読書」を継続する。読書週間の取り組みを活性化させ、積極的に読書に取り組む生徒の育成を図る。		A	上半期の朝読書定着率は全体で92.5%だった。今年度は職員の朝の動きを4月に周知することができたことと、各学年からの協力が得られたことで、各学年とも朝読書を定着させることができた。
		SSH探究の推進	SSHV期採択の初年度として、新事業であるSTEAM-D、科学哲学のカリキュラム開発と、熊本サイエンスコンソーシアムとの連携を深め、先導的な役割を果たす。進路指導部と連携し、論理コミュニケーションを導入し、国際標準の構成、表現方法を身につける。	・STEAM-Dはこれまで美術科で培ってきたプログラムを理数科、普通科に発展させる。 ・科学哲学は理数科先行で実施し、SSH講演会やSSH研究成果発表会など行事と連動させて、内容の充実を図る。 ・熊本サイエンスコンソーシアムを基盤として高大接続を推進し、課題研究など生徒の探究活動を軸に連携を充実させ、成果を外部に発信する機会を作る。		A	・STEAM-Dの取組として美術科・理数科合同のプログラムを2回、普通科とのプログラムを2回、新規に実施した。これまで外部講師等を招へいして実施指定や事業を通常の授業に取り入れるなど授業改善にも役立てている。修学旅行の研修にも活かされた。 ・科学哲学はGR(総合的な探究の時間に相当)で年間を通じた指導を行い、外部講師の講演や公開授業なども実施した。 ・熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)の取組で、合同研修会を実施。KSCとして先進建設防災減災フェアに参加し、

			・ 論指指導では、3年間を見通したカリキュラムを探究活動委員会で十分に協議し、成長の段階に応じた教材を選定し、探究活動を組み合わせ全職員で指導にあたる。		生徒の探究を一般に公開し、企業との交流を広げることができた。 ・ 論理コミュニケーションの導入で、生徒の表現力、論理的思考力を養う基盤をつくることができた。
	学校生活・学校行事の充実度	二高生らしく、生徒一人一人が主体的かつ積極的な行動ができるよう促し、感動を体験させる。	新型コロナウイルス感染防止の観点から、まだ例年通りの学校行事の実施はできない。そのような中において、生徒たちとともに試行錯誤、工夫を行い、学校生活の充実を図る。	B	運動会は終日開催、文化祭は2日開催と、生徒会を中心に工夫を凝らした形でコロナ禍以前と同様の日程で実施できたことが良かった。ただ、間が開いた分、準備等で上手くいかなかった部分が課題なので、その反省を次年度に生かしたい。
開かれた学校づくり	情報の公開・発信	公式サイト及びPTA広報誌について内容の更なる充実を図り生徒・保護者・卒業生、そして県民の方々へ積極的な情報発信を行う。	各学年、各分掌、部活動などサイトの更新頻度を高め情報を発信していく。PTA広報委員会との連絡を密にし、保護者の目線による本校の良さを的確に伝える内容を目指す。	A	第二高校ホームページから部活動や学校行事、各科の取組など昨年を上回る情報発信がなされた。また、運動会の動画配信がなされ、保護者に状況を伝えることができた。PTA広報誌は3回発行することができ、広報委員の生徒への取材などで、充実した内容となった。
	保護者・地域等との連携	・ 学年保護者会等を企画・実施する ・ 学校行事を近隣小中学校や地域に公開していく。二高会報の内容について更なる充実(視覚化等)を図り、地域等へ積極的な情報発信を行う。	・ ホームページやメールによる情報の伝達を迅速・着実に行い、保護者への周知徹底を図る。 ・ 地域の皆さんの理解を得るため、ホームページに行事予定や広報誌を掲載するとともに二高生の活躍の場を積極的に発信する。	B	・ 各学年・各部署の職員よりClassiやメール、ホームページを利用して、丁寧に情報の発信がなされ、保護者への周知徹底ができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症のため制限があり、地域の方々に来校していただく機会が少なかったが、ホームページでの情報発信をすることで、本校活動をアピールすることができた。
安全管理の取組	健康教育の推進	感染症予防対策を全校生徒に伝え、特に「黙食」の全教室内掲示と換気呼びかけ。全職員で校内の安全点検を行い、危険箇所の改善をする。	感染症予防対策では職員の共通理解を図り、黙食と換気について教室巡回指導を行い、授業や学校行事が安全に実施できるように指導する。校内安全点検では、記録表を活用し、年度内3回の点検実施と改善を行う。	B	生徒・職員のコロナ感染症予防対策は、改善や工夫を加えながら行ってきた。生徒の従順な態度のおかげで概ね達成できた。しかし、ワクチン接種後の体調不良生徒も多くコロナ禍での教育活動には支障が多い一年であった。校内安全点検は、職員の協力のもと概ね達成できた。
	施設設備の保守・点検	安全点検結果や普段の見回りをもとに、危険箇所の改修を行い安全安心な環境作りに努める。	事務での施設点検や、保健・相談部と連携して危険箇所の情報を正確に把握し、優先順位を決めて学校予算で対応できるものは、速やかに改修する。大規模改修については、県に予算要求して改善を図る。	A	定期的に校内危険箇所の点検を行い、優先順位を立てて教室棟階段の滑り止めの取替えや、トイレ天井の雨漏り対策等の環境整備を実施した。また、予算規模が大きい渡り廊下の滑り止め工事や体育館ステージ照明の改修、危険樹木の伐採等については、県に予算要求を行い改修工事等を実施した。さらに老朽化した普通・特別教室棟の校舎改築については、直接県へ出向き改善に向けて要望した。
業務改善・働き方改革	業務改善及び働き方改革の推進	・ 1・2年生の早朝学習撤廃を授業充実につなげる。 ・ 分掌部の改編並びに班長制による実効をあげる。	・ 朝の時間をゆとりにつなげる。 ・ 業務の見直しと連動し効率化を図る。 ・ ICT機器を活用して配信授業等行うため	B	・ 時間外勤務の平均は徐々に短くなっている。一方で業務の偏りは残っている状況である。 ・ ICT機器の活用はより一層浸透し、日常的にChromebookを利用する他、必要な配信授業

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・休校等の臨時措置に対応できる体制を堅固にする。</li> <li>・学校行事の見直しを推進する。</li> <li>・日課表の検討を進め、業務配分を適正な形で示す。</li> <li>・定例の衛生委員会を職員の健康確認につなげる。</li> </ul>	の職員のスキル向上と研究・整備。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事をはじめとする各取組のあり方を見直す。</li> <li>・日課表を見直したことで勤務時間内の業務処理を促進する。</li> <li>・全職員が時間外勤務の問題点を理解し、適切な業務時間を励行する。</li> </ul>		等を円滑に行うことができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における各取組について生徒の活動を生かす努力ができた。</li> <li>・日課変更により終礼が勤務時間を超えることは無くなった。</li> <li>・毎月の衛生委員会で職員の働き方について確認してきたが、さらなる業務改革とともに各自の意識改革を促す必要がある。</li> <li>・産業医による職場環境の視察を行うことができた。</li> </ul>
学 力 向 上	学習習慣	宅習（予習・復習）の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や課題配信、授業資料の提示など1人1台端末の活用により、個別最適化された学習内容を提示することで、宅習の質の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校総体・総文祭当日の家庭学習でも、動画と課題の配信を行うこととしている。各学年で国数英を中心に継続実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校総体・総文祭当日の家庭学習では、動画と課題の配信を行った。ただし、一斉の課題配信であり個別最適化されたとは言えないものであった。また定期的・計画的な配信はできておらず、単発的な取組に留まった。</li> </ul>
	授 業 力 の 向 上	授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的かつ協働的活動を取り入れた授業展開やICTの活用等、授業形態が変化している現状を踏まえ、実態に即した評価を行う。そのことで、授業改善及び生徒への学習支援につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価が一層実態に即したものとなり、教師の授業改善に資するものとなるよう、授業評価項目を見直すとともに、授業改善につながるよう教科に情報を提供する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台端末を利用して効率的に評価データを収集・集計・分析し、その情報を教科に提供することができた。</li> <li>・主体的かつ協働的活動を取り入れた授業展開等の情報提供が不足していた。</li> <li>・コロナ禍でのリモート授業等に対する職員の技能向上が顕著であった。</li> </ul>
		研究授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>三観点評価の研究と授業改善を軸に、研究授業と相互研鑽授業の推進を進め、授業改善と評価研究に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部、進路指導部と連携した職員研修を実施し、新教育課程について共通理解を図り、相互研鑽授業と連動させる。振り返りのアンケートを実施し、成果を数値化して共有し、改善に活かす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌と連携し、職員研修の年間計画を作成し、県の教育課程研究会と連動した系統的な研修ができた。相互研鑽授業の参観は63%で、多忙感による未参観が目立つ。公開授業、及び学校設定科目公開授業を実施し、授業改善を協議する機会とした。</li> </ul>
キ ャ リ ア 教 育  ( 進 路 指 導 )	進路目標の実現	進路実現に繋がるキャリア教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会や進路ガイダンス及びインターンシップを実施して生徒の進路意識の醸成を図る。</li> <li>・オープンキャンパス等を通して大学や入試情報を収集できる環境を整備し、情報の発信及び共有を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスについては、1年は同窓会と連携した職業別の講座、2年は学問系統別に大学の講師を招聘して実施する。</li> <li>・オープンキャンパス（WEB版を含む）への参加や大学主催の体験学習への参加を促す。また、情報発信を適宜行う。</li> <li>・オープンキャンパス等の活動の記録をデジタルデータで管理するように指導する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会をはじめ、職業別の進路ガイダンス（1年）や学部学科説明会（2年）は、対面により実施することができ、生徒にも好評であった。特に同窓会と連携した進路ガイダンスでは、講座を増やし同窓生と在校生の交流の場となり、60周年に花を添える行事となった。</li> <li>・コロナ禍で昨年同様WEBでのオープンキャンパスが中心であったが、ICTを活用することで多くの生徒が参加し、進路意識を啓発することができた。</li> <li>・インターンシップは3年連続で実施することができなかったが、看護師体験や薬剤師体験などを紹介して多くの生徒が参加することができた。</li> <li>・進路に関する体験学習や研修等への参加を斡旋し、多くの生徒が参加した。特に東大視察研修には1,2年生から10人を超える生徒が参加を希望し、4人が参加するなど難関大希望者を育成するきっかけとなった。</li> </ul>

		個に応じた進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との対話を大事にしながら、多様な生徒の多様な進路希望の達成を最優先する。</li> <li>・学年に応じて自己の進路を考える機会を充実させ、生徒の進路意識及び学習意欲の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談を実施し、生徒や保護者の思いを大切にされた進路指導を全職員で行う。</li> <li>・生徒個人に合わせた進路希望別の課外を実施し、より効果的で個に応じた学習指導の実践につなげる。</li> <li>・模擬試験については事前指導や事後指導、また業者と連携した結果分析を定期的に行い生徒の学力の現状を理解する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末に時間を設けて、三者面談または個人面談を実施することができた。特に1年生の2学期に巡回面談を行い、学年以外の職員が1年生の進路指導に関わる機会となり、学校全体で進路指導に当たる取組となった。次年度も実施したい。</li> <li>・3年課外及び長期休業中の課外は、志望校または習熟度別に実施し、一定の効果があつた。出席状況や部活動とのバランスなど課題が多く、今後は課外に関するルール作りや全職員での指導など改善すべき点があつた。</li> <li>・業者と連携しながら模擬試験の結果分析及び受験情報提供を定期的に行うことができた。時期的に模擬試験の実施回数や時期など次年度に向けて検討したい。</li> </ul>
	進路情報の発信	進路に関する適切な情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎の「進路だより」発行、年1回の「進路のてびき」の発行により、本校の指導方針の理解や進路情報の提供を行う。</li> <li>・進路資料室や掲示板の積極的な活用を促すことで、生徒の進路意識の啓発を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路だより」は、各学年の状況に合わせた内容のものを発行する。また、学年会や進路検討会等で本校の進路状況の説明を行い進路指導や面談等の機会に活用できる情報を発信する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の進路だより及び進路のてびきの発行を予定どおり実施できた。進路検討会や学年会での情報提供はできたと思われるが、進路だよりの発行時には時間を取って活用する必要があると思われる。</li> <li>・進路室前の掲示板は、定期的に掲示物を張り替え、情報提供に努めた。資料室の利用は主に3年生が中心であつたが、1,2年生も利用しやすい環境を整備したい。</li> </ul>
生徒指導	交通指導の取組	交通指導の強化と交通マナーの向上	交通安全に関する啓発を積極的に行い、事故件数・違反件数の減少につなげる。	単車通学生講習会や朝の登校指導及び生徒主体の交通安全啓発活動を行う。保健において生徒たちに交通安全について考えさせる授業を行う。体育館での交通安全教室が難しいので、Zoom等を活用して実施するなど工夫を行う。	B	今年度の交通事故件数は10件であつた。昨年度が7件だったため、若干増加している。朝の交通指導、交通委員による交通安全啓発活動も行った。保健においても交通安全意識を高める授業ができた。交通安全教室はmeetを活用して全学年教室で実施することができた。課題としては、下校時の自転車並進である。
	服装指導の取組	生徒の服装における自己管理能力の向上	服装規定や制服が変わる過程において、生徒の自律を促す日常的な指導や声かけを継続する。	服装規定の確認を行い必要であれば毎年、校則の見直しを考えていく。全生徒が安心して学校生活を送れるよう生徒たちには校則の意義を考えさせ、自らルールを守る態度を身に付けさせる。	B	校則を全面的に見直し、服装検査も廃止して1年が経ち、大きな乱れがあるわけではないが、細かいルールを守れない雰囲気があつた。校則見直しの意味を生徒たちには繰り返し伝えていかなければならない。新制服は何度も意見交換をしながら、よりよい形に完成することができた。
人権教育の	人権・道徳教育の取組	教職員・生徒の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、各学年2・3回のLHRでの活動と一日の大部分を過ごす学校における生活の中で、人権意識の向上を図る。</li> <li>・教職員は、LHRの事前研修や人権問題についての校内研</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHR活動内容について主任が作成した案を人権教育委員会で検討し、管理職に了解を得た上で職員の事前研修を行い共通理解を図ったうえで実施する。</li> <li>・教職員はオンライン等の校内研修を踏まえ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRでは、生徒たちを取り巻く重要な課題に沿った内容を扱い、その時々マッチする新教材を作成し、実施前の研修会を経て、実際の授業まで滞りなく実施することができた。授業者や生徒たちの感想もフィードバックすることができた。</li> <li>・職員の研修については、県同和</li> </ul>

推進			修及び校外研修等を通して人権意識の向上を図る。	全職員が研修成果報告を提出する。校外研修会にも積極的に参加して研修内容を他の教職員と共有する。また教育活動を通して人権意識を涵養できるよう文書などで啓発活動を行い、生徒にフィードバックできるように研鑽する。		教育課作成のオンラインのビデオを使用し、自ら研修ができたことを周知することができた。同時に、各自での研修の形をとり、期間も長くとしたことで、全職員に研修を促すことができた。またformsによるアンケートも実施した。 ・校外研修については人権教育委員会のメンバーほとんどが何らかの研修に参加することができた。 ・人権に関する講話積極的に参加する生徒もいたのは、啓発活動が頻繁にできたからだと思われる。
特別支援教育活動の推進	不登校傾向の生徒をはじめとした生徒への支援活動	早期対応及び適切な対応ができるように各学年会において生徒情報集約を行う。個に応じた支援計画や指導計画を行う。	定期的に教育相談部会を開催し、各学年の生徒状況を確認、また保健室の利用状況やSCへのつなぎやなどに関係学年や担任と連携しながら早期対応や早期個別支援体制を作る。	B	不登校や教室へ入れない生徒は増加傾向にあり、その原因も多様化、複合化している。そのため支援のあり方や情報共有が大切である。そこで各学年会での生徒の情報を相談部でも共有し、記録をまとめることができた。別室登校や保健室登校で個に応じた指導を概ね達成できた。	
命を大切にすることを育む指導	自他の生命を尊重する心の涵養	命を大切にすることを育むために、「健全な自尊感情を育む」「規範意識を育む」「人間関係を築く力を育む」を目標とする。	授業、ホームルーム活動、特別活動、総合的な学習の時間等すべての教育活動において、三つの目標を明確に位置づけ、道徳的実践活動を効果的に推進していく。	B	人権教育担当者や教育相談部と連携を図りながら、各授業や各ホームルーム活動で道徳的実践活動を行うことができた。課題としては、特に人間関係を築く力を育むことだと感じる。コロナが原因かもしれないが、人間関係などを上手くできない生徒が増えている。	
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめ早期発見の取組み及び相談体制の確立	いじめの早期発見・実態把握に努めるとともに、生徒・保護者が相談できる環境作りを行う。	B	「心のアンケート」や日常的な声かけにより、いじめの実態把握やスクールカウンセラーとの連携に努めることができた。生徒が相談しやすい環境づくりを今後も充実させていきたい。6月には生徒会と連携して、いじめ防止のための取組を行うことができた。	
	指導体制の整備	いじめに対する措置	いじめが発覚した場合は、組織をあげて速やかに対応し、問題解決にあたる。	B	いじめ問題対策委員会で、「いじめを受けた」と回答した生徒全員について、実態調査を行った。また、いじめの疑いのある事案についても審議した。重大事案はなく、いじめの件数は7件であった。いじめの解決が、学校における最優先課題であるということを生徒に周知徹底していく必要がある。	
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの活性化	学校運営協議会の開催	総合型学校運営協議会として、地域の行政機関や保護者、地域住民等との連携を深め、学校の魅力化を推進する。	A	学校運営協議会(総合型CS)を開催し、地域との連携を深めた。委員の前向きな評価・助言を受けて、今後の学校経営に生かしていく。	
	地域との連携	校区防災連絡会との連携	東区役所や校区自治協議会との連携を深め東町校区地域の防	A	東区役所の防災担当者とともに校内備蓄の防災備品の点検確認を行った。また、11月27日(日)	

			災体制を推進する。	とともに、防災体制の改善を行う。		には、熊本市一斉防災訓練において、震災後初の車中泊避難所の実施訓練を、本校において、東区役所、東町校区自治協議会と合同で実施した。
理数科 ・ 美術科 の 充実	理数科の 充実	科学的に探究する能力と創造力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSH第Ⅴ期の中心的存在として、イノベーション人材に必要な能力を育成する。</li> <li>課題研究を活用した進路実現に向けて理数科を対象とした進路検討会を実施する。</li> <li>高度な専門性と獨創性・創造性を身につけた人材を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学や倫理の思考を取り入れた本校独自のSTEAM教育を開発・実践する。</li> <li>課題研究の内容、発表会への参加について志望先の入試形態を意識させながら、実践的な準備を促す。</li> <li>大学と連携した課題研究や大学の研究室や企業への訪問を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本大学からの助言・指導をいただき、本校1年生に科学哲学・倫理の授業を展開した。また、企業と連携を図り、次年度のデータサイエンス講座の礎を築いた。独自のSTEAM教育を開発・実践に向けて好発進できた。</li> <li>全国規模の発表会にオンラインで参加できるようになったため、発表会の選択の幅が広がった。医歯薬系の希望者が薬科大学主催の発表会に出るなど、進学を意識することができた。</li> <li>熊本サイエンスコンソーシアムを窓口半数以上の課題研究班が大学や企業から研究支援をいただき、質の高い研究に取り組むことができた。</li> </ul>
	美術科の 充実	美術を愛好する精神とキャリアにつながる実技力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門科目を横断し多様な知識と実技力を育成する。</li> <li>美術系進路への意欲を高め早期の志望決定と計画的な対策を行う。</li> <li>美術を通じた社会性と自己有用感の涵養を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全単元でICTを活用するとともに、3カ年を見通したシラバスを作成しチーム・ティーチングによる個別指導を深化させる。</li> <li>年次に応じた進路情報や対策を示し、面談等による志望決定と実践的な準備を促す。</li> <li>外部との連携による発表機会等を設けるとともに個々の課題等を指導者間で共有する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料提示や振り返りなどでICTを活用した。3カ年シラバスはclassroom等の情報にリンクするよう作成を進めている。</li> <li>美術科進路検討会、オンライン進路ガイダンス等を実施した。入試形態に応じた準備を計画的に進める必要がある。</li> <li>東町デイサービスセンターや益城病院等で作品展示を行ったほか、2学期までにのべ143人が公募展等で入賞入選を果たした。SSH事業と連携し、幅広い学習機会を設けたほか、二高ゼミは基礎科を廃止し、ターム制とした。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

○県内公立高校でも美術科やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を長く取り組んだ高校として、学業面や芸術面その他、地域とのつながりのある学びの機会に生徒は恵まれている。

○進路実績については、長年培ってきた成果が生徒の夢の実現につながり成熟している。

○生徒指導面でSNSを使ったいじめや誹謗中傷など「見えないいじめ」が心配される。情報モラルの徹底と早期発見できるシステムの構築が必要である。

○総務はコロナ禍で様々な行事が制限された。生徒が心豊かに高校生活を送れるよう生徒へ利益享受の形でPTAとの協力関係を堅持してほしい。

○学校評価アンケートにおいて人権教育、環境教育といった保護者が「わからない」のポイントが高い項目は、情報がうまく伝わっていないのではないかと。それを伝える手段等が必要。

#### 5 総合評価

創立60周年を迎え記念式典・運動会・文化祭等、様々な記念行事を行い、生徒・保護者・職員の愛校心がさらに高揚した。また、機能性やLGBTQを配慮した新制服披露も行き高評価を得た。メディアに取り上げられる機会も多く、前期（特色）選抜（理数科4.95倍、美術科4.35倍）、後期（一般）選抜は高い倍率水準を保ち、本校教育活動が地域から信頼を得ていることを確認できた。

上記の自己評価総括表から検証すると、評価基準A、Bの項目が多く、概ね目標が達成されている。保護者への学校評価アンケート質問項目「主体的な学びにつながる工夫」について、生徒は79%（昨年度83%）が工夫されていると答えており、生徒が肯定的に感じ取っていることがわかる。一方、保護者は40%と昨年度と同様である。今年度は学校行事も徐々に従来通りの形に戻ったが、保護者向け公開授業等はまだ実施していないこともあり、学習面に関する発信を学校ホームページや各担任や学年主任の学習支援ツールClassiやClassroomでの配信などさらなるアピールの必要性がある。

今年度の1年生から新学習指導要領がスタートしたが、SSH探究部が中心となって教務部をはじめとする各校務分掌、学年と密に連携し、職員研修の年間計画及び研修の運営を行った。スーパーサイエ

ンスハイスクール（SSH）事業で研究している評価法「二高ICEモデル」の研修も行き、観点別学習状況評価の導入を補助した。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- 生徒の進路希望を実現するための教科指導力向上の取組を積極的に行う。（思考力を重視した授業、考査問題研究、希望者対象の1・2年生でのコース別課外、3年生個別学力試験に向けた課外等）
- 難関大学を目指す生徒が増えるよう指導の分析と情報発信を行う。
- 生徒会活動を通じて、生徒一人一人が学校全体でいじめを許さないという明確な行動がとれるような取組を行う。
- 自転車及びバイクを使用する生徒に対する交通法令の遵守（交通事故防止）の指導は引き続き行う。
- 防災に関して生徒・教員が自分で判断して動き、指示できるよう防災教育を強化する。また、小学校・中学校・高校・地域と連携した取組を行う。
- 本校ホームページを積極的に活用し、総務部からだけでなく、すべての職員に呼びかけて情報の発信に努める。